

蕨市立病院運営審議会 会議録

【日 時】 平成 30 年 2 月 21 日（水）午後 2 時 45 分～午後 3 時 40 分

【会 場】 蕨市保健センター 2 階 健康教育室

【出席者】 (敬称略)

出席委員 比企孝司、梶原秀明、高橋悦朗、箕輪晴助、森住卓(田中義枝代理)、
金子健二、伊藤利男、福田純

欠席委員 原澤茂、須賀久美江

病 院 側 頼高英雄(開設者蕨市長)、鷺見禎仁(蕨市立病院長)
山内雅夫(同医務局薬剤部長)、松田久美子(同医務局看護部長)

事務局側 榎本弘文(事務局長)、小川淳治(同庶務課長)、堀田義信(同庶務課長補佐)
加藤晶大(同庶務経理係長)、大森るみ子(同地域医療連携担当係長)
小峰聖仁(同主査)、山下尚記(同主事)

【内 容】

1. 市長挨拶

2. 議題

- (1) 平成 29 年度上半期中間決算等の概要について
- (2) 第 2 次経営改革プラン行動計画の取組状況について
- (3) その他

配布資料

資料 1 平成 29 年度中間決算

資料 1-2 平成 29 年度上半期（業務量）

資料 2 第 2 次蕨市立病院経営改革プランー行動計画の実施状況ー

資料 3 蕨市立病院運営審議会席次表

資料 4 蕨市立病院運営審議会委員名簿

資料 5 蕨市立病院運営審議会条例

参考資料 1 平成 28 年度決算概要

参考資料 2 平成 29 年度診療科別患者数及び収益状況（入院・外来）

参考資料 3 未収金の状況について

【会議の概要】

1. 開会（事務局）

2. 市長挨拶（市長）

【市長】 こんには。市長の頼高英雄でございます。本日は、蕨市立病院運営審議会にご出席をいただきありがとうございます。比企会長さんをはじめ審議会の皆さんには、日頃から蕨市立病院の運営に大変ご尽力をいただいておりますことに、まずは市長として心から御礼を申し上げたいというふうに思います。蕨市立病院、地域の救急医療含めて市民の健康を守る中核病院として、また、今蕨市内では出産、分娩できる唯一の病院として、大変重要な役割を担っているというふうに考えております。そして皆様のご協力をいただきながら、2次にわたる経営改革プランの策定をさせていただいて、市民に愛される地域の中核病院としての役割を果たすべく、またそのためにも安定経営も含めての様々な改革、運営の努力を今続けてきているところであります。そうした中で、後程ご報告があると思えますけれども、28年度につきましても黒字決算ということで安定経営を続けることができ、29年度上半期につきましても今順調に運営が続いてきているというところであります。第2次の経営改革プランにつきましては、昨年の6月に一部改定と、この審議会でもご説明をさせていただきましたが、改定をさせていただいております。その中では、これまでの経営改革プランの推進に加えて、この市立病院について地域の医療構想を踏まえての果たすべき役割であったり、あるいは今大きな課題となっている地域包括ケアシステムの構築に向けての果たすべき役割といったものを追加させていただくとともに、市立病院の将来の果たすべき役割、方向性を定める将来構想を策定していくと、そういうことも追加をさせていただいたというところであります。いよいよ間もなく30年度、新年度を迎えようとしておりますけれども、この将来構想については29年度、今年度策定のための基礎調査というものを今実施をしているところであります。30年度については将来構想そのものの策定も進めていきたいというふうに考えております。また30年度は診療報酬の改定、今回は介護と障害福祉の改定も一緒に行われると、6年に一回のそうした同時改定という年であります。伝えられているところでは本体については0.55%プラスということですが、薬価についてはマイナス1.74と、全体としてもマイナス1.19%の改定ということがありました。この診療報酬というのは、病院経営に一番直結する大変大きな課題であります。新しい診療報酬動向もしっかりと踏まえながら、引き続き市民の健康を守る拠点としての役割を果たすべく、院長先頭に取り組んでいきたいというふうに思っております。今日の審議会の中では是非忌憚のないご意見をいただければと、そのように思っております。本日はどうぞよろしくお願い致します。

3. 議題

【事務局】 頼高市長ありがとうございました。それでは、ただいまから議事に入らせていただきますが、市立病院運営審議会条例第 5 条より会議の議長は会長が務めることになっておりますので、比企会長よろしくお願ひ致します。

【会長】 はい、それではこれより進行させていただきますが、議事に入る前に金子委員さんから途中退席をする旨のご報告を受けております。許可させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは議事を進行させていただきます。1 番「平成 29 年度上半期中間決算等の概要」についてを議題と致します。事務局からのご説明をお願いします。

【事務局】

それではご説明致します前に、本日お配りいたしました資料につきまして、まず A4 の資料 3、席次表につきましてこの度ご出席されている皆様のものになっておりますのでよろしくお願ひ致します。

それでは、平成 29 年度上半期中間決算等の概要につきましてご説明いたします。

まず、上半期の業務量からご説明いたしますので、資料 1-2「平成 29 年度上半期（業務量）」をご覧ください。

はじめに、1 の「患者数等」でございますが、入院につきましては前年度より 124 人増の 16,676 人となり、1 日平均入院患者数は前年度より 1 人増の 91 人、病床利用率は 0.5 ポイント増の 70.1%でした。外来につきましては、前年度より 2,081 人増の 64,300 人となり、1 日平均外来患者数は前年度より 14 人増の 432 人となっております。診療科別で見ますと、入院では内科、外科、産婦人科、眼科で減少したものの、整形外科、小児科で増となり、特に昨年度 8 月より常勤医師を採用しました整形外科で 2,075 人増加しております。また、外来においては、小児科、産婦人科で減となったものの、その他の診療科で増加しており、特に整形外科で 1,957 人、また、耳鼻咽喉科では、東京医大からの医師の派遣の関係より金曜日が休診となっておりますが、4 月より医師の派遣が再開されたことにより 528 人の増加となっております。また、産婦人科での患者数の減につきましては常勤医師 2 名が産前産後休暇を取得したことによりまして患者の受け入れ制限を行ったことが要因となっております。

次に分娩件数は前年度より 21 件減の 237 件、各診療科における手術件数については全体で 37 件増の 478 件となっており、主に整形外科で増加しております。

次に、2 の「収益」でございますが、入院における患者一人当たりの収益は、前年度より 1,844 円増の 37,442 円、外来は 377 円増の 11,468 円となっております。診療科別収益を見てみると、入院については、前年度に比べ整形外科で患者数、一人当たりの収益が上がったことにより増収となったほか、外科では患者数は減少したものの、一人当たりの収益が上がったことなどにより、入院収益全体では前年度に比べ約 3,510 万円の増収となりました。外来についても、前年度に比べ患者数、一人当たりの収益ともに増加したことにより、外来収益全体では約 4,730 万円の増収となったところであります。

以上の入院、外来の医業収益を含む上半期の事業収益及び事業費用につきましては、資料1の中間決算をご覧ください。

まず、(1)収益的収入及び支出の(ア)収入、上半期における事業収益は、その他医業収益において、患者数の増等により室料差額収益が、また、公衆衛生活動の予防接種においてB型肝炎ワクチン接種が定期接種になったことなどにより増収となり、前年度比9,306万2,764円増の15億8,251万893円となりました。これに対して(イ)の支出、事業費用につきましては、前年度比6,432万2,653円増の15億3,212万4,162円となりました。このうち給与費では、医師・看護師の職員数の増や期末勤勉手当の支給率の改定により給料・手当が増となったほか、産婦人科にて医師の産休代替の非常勤医師派遣により賃金が増したことなどにより、前年比5,697万1,293円増の8億8,724万4,472円となりました。

材料費については、患者数の増加により薬品費や診療材料費が増加したほか、整形外科にて手術件数が増したことにより治療材料が増加したため、前年比1,947万2,075円増の3億7,176万5,779円、続いて経費につきましては、看護師の育休取得者の減や、医師紹介手数料の減などにより前年比877万1,332円減の1億9,026万5,486円となっております。

この結果、収益的収支の状況といたしましては、今一度、資料1-2の右下3の「損益」をご覧ください。事業収益は15億8,251万1千円に対して事業費用は15億3,212万4千円、差し引き5,038万7千円の純利益を計上しております。

なお、平成28年度決算につきましては、参考資料1をご参照いただければと思いますが、収益においては、先ほどご説明しましたが整形外科医師の採用に伴い入院・外来ともに大幅に患者数が増加したほか、産婦人科においても婦人科系患者の増等により、約8,680万円の純利益を計上しております。昨年度から入院での病床利用率が70%を超えており、現在も同様の数値で推移しており収益について増収傾向であります。

なお、直近の入院、外来の診療科別患者数及び収益状況として参考資料2を添付しておりますのでご参照ください。

続いて資料1に戻りまして2枚目をご覧ください。資本的収入及び支出についてご説明いたしますが、資本的収入につきましては、収入額は0円となっております。

次に支出であります。資本的支出の総額は前年比339万6,366円減の5,101万4,986円となっております。この資本的支出のうち建設改良費の施設工事費といたしましては、インターネットを光回線に切り替えました敷設工事8万4,499円、CT操作室にて空調の不具合による入替工事31万円を執行しました。資産の購入では、診療備品など3,025万9,318円を執行しておりますが、主なものといたしまして、内視鏡室にて経年劣化のため買替ましたビデオ内視鏡システム1,474万9,585円、オペ室にて経年劣化のため買い換えました移動型X線透視装置645万8,400円、次に2階病棟にて経年劣化により買替ました分娩監視装置3台319万6,800円など、10品目の診療備品を購入いたしました。

以上で平成 29 年度上半期決算等の概要について説明を終わります。

【会長】ただいま事務局より説明がありましたが、この件について委員の皆さんからのご質問がありましたらお願い致します。

【委員】はい。

【会長】どうぞ。

【委員】非常に努力されていて、病院に活気がみなぎっているような感じが見受けられますね。これは整形外科、もう何回も私委員になって何回も言っていますけれども、整形外科の導入により、やはりこういうような結果が出てきたのだと思います。また、やっぱり手術件数が増えるということは、病院に活気をもたらす要因になると思いますね。中々良いことだと思います。非常に院長先生ご苦労様です。

【会長】他にいかがでしょうか。

【委員】はい。

【会長】どうぞ。

【委員】病棟稼働率 70%、この辺があまりよろしくないのじゃないかという印象を持っております。他の病院と比べるともうちょっと良いが数字出ているものですから、その辺どのような、努力はされているだろうと思いますが、要するに 30%は空いているぞという計算ですので、入院患者が必要なときに満床だ何だとかで他に回されちゃったりということも現実的にあるものですから、その 30%をもうちょっと有効に使えないかなと思っておりますが、その辺はどうでしょうか。

【事務局】それでは今のご意見でございますけれども、一応予算上ですとか経営目標におきましては、1 日あたり 100 床、ですので大体 76%台を目標にしております。ですから中々 1 年間の平均でいきますと、そこに達しないという部分がございますので、本来であればその目標値を常に上回るようなところが望ましいであろうというふうに考えています。また、救急搬送ですとか、紹介によってお受けさせていただくベッドを確保しなければなりませんので、その辺は考えているところでございますけれども、中には、中の状況、男女の差ですとか、あと中の患者さんの状況によってベッドが中々工夫できないというようなこともございますので、そういう時に色々ご迷惑おかけしている状況でございますので、その辺は色々考えてまいりたいなというふうに思っているところではございます。

【委員】目標の 76%、それが低すぎるということはないのでしょうかね。

私の知る限りでは、大体そのかなり努力されているところでは 90%を目指しているという、時には 100%を超えるような病院もいくつか散見しておりますので、それが 100%が良いかどうかは別にしてもね、ちょっとその 76%の基準が、目標値が低すぎるということはないのでしょうかね。

【会長】院長。

【院長】低いですね。但し、医師の確保と看護師の確保は 10 対 1 を採用しており、そこから算出すると、現在のところ診療可能なベット数は 100 床としております。逆に、そこを

私達が強調すると、「蕨市立病院は 100 床で良いのですか。」という話になってしまいますので、声高には言いたくはありませんが、現実として医師の確保と看護師、その他医療従事者の確保の今限界が、その 100 床をなんとか回せるようにということに汲々としていくところで、それが現実的には 130 床の 76%ということですよ。私達の言い訳になっていきますが、病床利用率 76%が 100%という感覚で仕事しているので、周りの方から見ればちょっと理解しづらいなというふうに思われるかもしれませんが、そこは 1 つの目標となっています。あと、もう 1 つこれは皆さんには分かりづらいことですが、うちの病院の病棟の構造に原因もあるのです。2 階病棟、3 階病棟、5 階病棟というふうに分かれていまして、2 階が産科専門の病棟となっているのです。ここが空いていても中々使えないです。例えば内科の患者さんがいっぱい多数来られたときに、内部事情ですけれども私個人としては 2 階を有効に利用したいです。でも、2 階は特にお産の人達がメインでいますから、感染症の患者は入れられません。そこに病棟の使い方、ベッドの使い方の限界があります。そのような事情は外からは見えづらいところだと思うので、これは建て替えの話の際に、それ考えて設計しないとイケないですね。

【会長】 委員さん、良いでしょうか。他に。

【委員】 患者数も増えて、それから 1 人あたりの収益が顕著に増えていると思うのですが、けれども、例えば眼科や外科などで 1 人当たり収益が 1 割とかそれ以上増えているのは、何か大きな変化があったのでしょうか。

【会長】 はい、お願いします。

【事務局】 入院の外科と眼科でということによろしいでしょうか。

【委員】 はい。

【事務局】 外科につきましては、主に癌の手術の件数が増えたということが 1 つ要因となっております。悪性腫瘍の手術に関しては手術点数などが高額ですので、特に乳がんの手術ですとか胃がんの手術などが前年に比べて件数が増えているということとですね、あと、眼科についてはちょっと分かりづらいのですけれども、主に白内障の患者さんが入院されるのですけれども、こちらに関しては点数が包括の点数になっておりまして、1 人当たり大体 22 万円ぐらいなのですけれども、4 日間入院していようが 5 日間入院していようが同じ点数になりまして、前年度と比べるとですね入院の日数が少し減っているのです、単価で、収益を人数で割り返していくとですね、どうしても単価が少し大きくなってしまいうところがあります。そういったところが単価が増えた要因というところになります。

【委員】 はい、分かりました。あと、もう 1 つなのですが、外国人が増えてきてそういう対応も数年前から強化しているというのは分かっているのですが、特に分娩でも今 3 割くらいが外国人でしょうかね、そんな感じがしているのですけれども、そのあたりで患者数が増えている要因の 1 つはそのあたりあるのかどうか、どうでしょうか。

【会長】 はい、お願いします。

【事務局】 産婦人科の分娩の患者でございますが、やはりですね日本人の方、外国人の方

の比率を見ますと、全体の3割程度がですね外国人の数というような状況で、若干外国の方の人数も増えてはきているような状況でございます。これにつきましてはですねやはり産婦人科の常勤の医師の中に、いわゆる外国の中国の医師がおりますので、その辺で色々口コミ等でですね外国の方が増えているのかなというふうに思っているところでございます。

【委員】産婦人科以外でもそういう傾向があると思うのですが、その辺はどうでしょうか。

【事務局】はい、そうですねやはり当然、産婦人科以外でも小児科についてもですね、当然出産してそのお子さんがかかるということもあるでしょうし、あとは当然それ以外ですね内科、整形とかでもですねやはり若干外国人の方が増えているような状況が、見受けられているところでございます。

【会長】他にご質問はいかがでしょうか。

【委員】この29年度の間接決算ということですが、この近くの9月ということですか。

【会長】どうぞ、お願いします。

【事務局】中間決算ですけれども、上半期ですので4月から9月までの6ヶ月間ということになります。

【委員】そうすると、この業務量も上半期ですから9月までということですよ。そうすると手術件数なんか見た場合には、下半期なんかは大きく件数が変わってくると思うのですが、そういった上半期9月において利益でいくとどのくらい変わっているというのは、推測で結構ですけれども随分大きなものというものはありますか。上半期、下半期においては。傾向として。

【事務局】整形外科の方が、三谷医師が入職したのですけれども、おととしの8月なので。ですので、上半期に関しては前年と比べまして、整形外科の医師が居たときと居ないときがあるのですけれども、下半期に関しては整形外科の医師は昨年度も本年度も居るような状況ですので、それ程目に見えて増加ということは無いのかなとは思いますが。ただ実際に、今日現在ですね111入院患者様がいらっしゃいますので、非常に年末から上がってきている状況ですので、悪くない決算になるのかなというのは予想しています。以上になります。

【会長】はいどうぞ。

【事務局】はい、若干補足でございますが、そのオペの関係でいきますと、直近1月末現在ですねオペ件数の話をさせていただきますと、平成28年度ですね1月末でですね全体で724件というですねオペの状況でございました。平成29年度につきましては、787件ということで63件の増という形になっておりますので、オペにつきましても、整形以外の部分でもですね若干増えてきたという状況でございます。以上でございます。

【委員】それと診療別なのですけれども、人工透析なのですけれども、人工透析も外来で若干増えて収益的にも増えている訳ですけれども、1人あたりの収益で見るとマイナスになっていますけれども、これ何か変わったものがあるのでしょうか。

【会長】 お願いします。

【事務局】 透析の方なのですけれども、こちらに関しては確かに人数的なものは少しずつ、前年上半期、28年度上半期からすると増えてはきてはいるのですけれども、収益と致しましては、多分昨年の審議会で少しお話をさせていただいたと思うのですが、透析に関しては透析の時間によって診療報酬が変わってきますので、傾向として短い時間の患者様が多かったのかなというところが要因として挙げられるかなと思います。以上です。

【委員】 じゃあ特に変わったというものは無くて。

【事務局】 そうですね、無いです。

【委員】 人数増えた分だけ収益としても全体としては出ているということで、良い訳ですね。

【事務局】 はい。

【委員】 はい、分かりました。

【会長】 他に、よろしいですか。質問が無いようですので、次に議題2の「第2次経営改革プラン行動計画の取り組み状況」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、第2次蕨市立病院経営改革プラン行動計画の実施状況についてご説明させていただきますので資料2をご覧ください。

行動計画の実施状況につきましては、今年度12月末時点までの主な項目を説明させていただきます。まずは、1ページをご覧ください。まず、初めに短期的に取り組む項目の(1)「地域連携の強化」のうち、1の「地域医療連携担当の充実」では、退院支援につきましては、患者・家族のみならず、施設等の退院先の意向にも配慮するよう取り組んでいるほか、近隣の開業医からの依頼を優先するなど、受入件数の増加に努めております。続いて、2の「地域医療機関等との連携及び情報交換の場の設定」につきましては、引き続き積極的に近隣医療機関における連携会議や懇談会の場に参加し、情報交換に努め、日々の連携業務へ活かしております。次に2ページをご覧ください。患者の紹介、逆紹介の実績については、紹介1,575件で紹介率16.14%、逆紹介1,684件で逆紹介率12.20%となっており、紹介率は昨年より若干減少し、逆紹介率は増加しております。

続いて(2)「薬剤の院外処方の検討」については、平成26年度に医薬分業を実施することによる収支の影響額についてシミュレーションを行った結果から、院内処方を継続することといたしました。また、薬品原価率や消費税の引き上げなどの動向を見ながら引き続き検討してまいります。また、院外処方を希望する患者様については、引き続き院外処方を実施しております。

次に6ページをご覧ください。中期的に取り組む項目の(1)「患者サービスの向上」のうち、1の「施設及び設備の改善」では、受診者の声などを参考に病棟洗面の配水管の清掃及び部品の更新、外来屋上の防水層の簡易補修などを実施いたしました。

次に8ページをご覧ください。4の「患者満足度アンケートの継続実施」では、毎年アン

ケートを実施しており、今年度につきましても、現在実施しているところであります。

次に9ページ、5の「医療相談の充実」では、ソーシャルワーカーが退院支援を中心に対応しているほか、治療内容や医師へ直接聞きづらい相談等に看護師が応じるなど、スムーズな退院、患者に寄り添った対応に努めております。

また、(2)「コストの削減」のうち、1の「類似医療材料等の統一化の継続」につきましては、今年度の実績は9件、削減額は21万462円となっております。次に10ページ、2の「ムダ取り運動の継続」では、10ページに記載のとおりの実績であり、こちらは毎月の管理会議で報告するなど、削減意識の維持に努めております。続いて、11ページ、3の「ジェネリック医薬品の利用促進」につきましては、15品目を追加、3品目を廃止し、158品目となっております。

次に、(3)未収金の回収強化のうち、1の「未収金対応マニュアルの作成及び回収強化」につきましては、参考資料3をご覧ください。平成28年度末の未収金額は入院が1,212万6,678円、外来が312万9,708円、合計1,525万6,386円となっており、前年度に比べ約50万円減少しております。平成29年度では、未収金のうち平成28年度以前分の納入額が、平成29年12月末現在で入院、外来合わせて134万9,511円、平成29年度の発生分といたしましては、同じく昨年12月末現在で入院、外来合わせて572万7,352円となっております。

これらの対応につきましては、未納者に対して毎月催告書を送付するほか、連帯保証人を含め診療費等支払保証書の提出を徹底するとともに、総合受付や地域医療連携担当と連携をとり、支払い相談など早期段階での介入を行うよう努めております。

次に15ページ、長期的に取り組む項目の(2)「建物の耐震化及び老朽化への対応」では、平成28年度に策定した市の公共施設等総合管理計画の中で示された施設管理の基本方針に基づき、公立病院の果たす役割や建て替えを含めた施設の在り方について、平成30年度に病院の将来構想を策定するため、現在基礎調査を実施しております。

以上で第2次経営改革プラン行動計画の実施状況の説明を終わります。

【会長】事務局より説明がありました。この件について委員の皆さんからご質問等ありましたらお願い致します。

【委員】良いですか。

【会長】委員。

【委員】はい、大変病院の院長含めまして関係者が経営努力をなさってしまして、結果的に収支も黒字になって、大変結構なことだと思います。そこで私からの質問はですね、確かこの経営改革プランというのはスタートしてから、今回2次目ですけれども、6年目が迎えているのではないかと思います。そこで皆さんの努力でですね、いろいろ改革されていらっしゃるんですよ。で、今現在過去6年間の実績の中でトップ3は何なのか、その辺をちょっと具体的にご説明していただきますと、この市立病院のそれがセールスポイントにもなるのではないかなと思ひまして、ご質問させていただきます。

【事務局】はい、それではですねこの経営改革プランのトップ 3 ということでございますが、やはりまず 1 つと致しましてはですね、先程の行動計画関係の 1 ページでございますが、そこで地域医療連携担当の充実ということが挙げられてございます。当院につきまして、経営改革プランを策定する以前はですね、地域医療連携担当という者がおりませんでした。で、このプランでですね、こういったものも充実していこうということで掲げてですね、当初ですねこの地域医療連携担当につきましてですね、退職をした看護師さんですね、その方非常勤でございますが、その者と医事系の職員で行ってきた訳ですけども、その後充実を図る、強化を図るということでですね、現在はですね専任のですね元看護師の職員とですね、あと非常勤のパートの看護師、あとはソーシャルワーカーですねそちらを入れて、今地域医療連携担当のほうで地域のクリニックまたは病院等ですね連携等を進めているところでございます。またですね、ナンバー2 ということでございますが、やはりこれは当院の悲願でございました整形外科の医師の採用、こちら整形外科の常勤がですね平成の 20 年ぐらいに常勤がいなくなりまして、非常勤体制という形になりました。その後、一時常勤が採用できた時期がありましたけれども、すぐに退職したということもございまして、整形外科の常勤医師が 1 名確保できたということで、非常に素晴らしかったなというふうに思っているところでございます。あともう 1 つの最後の 3 番でございますがやはり、これはですね建物の関係というところで、こちら最後の 15 ページでございますが、やはり病院のこれからの将来、目指す方向性を示す将来構想の策定ということで今準備を進めているところでございますので、こういったものにも着手し始めておりますので、この辺なのかなというところでございます。以上でございます。

【会長】よろしいですか。

【委員】はい。

【会長】他の委員さんからはいかがでしょうか。どうぞ。

【委員】未収金の関係で確認なのですけども、先程平成 28 年度末の金額を教えてくださいなのですが、これは 28 年度に発生した分なのか、過去の累積の金額なのか教えてください。

【会長】お願いします。

【事務局】先程お話致しました 28 年度末未収金額でございますが、こちらは累積の金額となっております。

【委員】累積の金額。

【事務局】はい。

【委員】そうしますと 27 年度末に比べて減っていますので、未収金額が減っているというふうに理解してよろしいか。はい、分かりました。

【会長】他に。

【委員】先程述べられておりましたけれども、今年度 29 年度における基礎調査の実施ということですが、もう 2 月ですけども、あと僅かですけども、大体どのくらいまででき

て、どのような内容なのかこれをまずお聞きしたいと思います。

【事務局】基礎調査でございますけれども、これはあくまでも外部環境がメインでございます。外部環境というのは当院の周り、国の状況ですとか県の状況がどうなのか。でまた、内部でいきますと、うちの患者さんの層としてはどういう方が多いのか。あと、病気別でどういう方が多いのか、そういうところを今まとめている状況でございます。数字的などころについては大体はまとまってきたのはいるのですが、あとは今後の対応のところ、平成30年度がちょうど診療報酬改定ということもございますので、その詳しいことがもう少ししたら出てきますので、その辺も踏まえて最終的にまとめていくというふうな状況です。もうその辺が出るのを待っているというような状況ではあります。

【委員】それは経営改革部分での基礎調査であり、それに対する将来構想ですよ。

【事務局】はい。

【委員】じゃあここで言っているところの耐震化、老朽化への将来構想、これはこれからということですか。それに対する基礎調査はもう終わっているのですか。

【事務局】そこの表現が分かりにくかったと思います。大変申し訳ないのですが、建物については基礎調査部分は入ってはいけません。あくまでも基礎調査は経営上の数値的なものでありまして、そこからそれを反映させて30年度の将来構想で当院の地域での役割ですとか、在り方その辺も含めた上で、どういう建物が良いのであるとか、その建物の在り方が見えてくるということでありまして、あくまでも今回の基礎調査は経営部分に関するものでございます。

【委員】将来構想の中でその耐震化も含めた検討していくことでよろしい訳ですね。

【事務局】はい、建物の在り方も将来構想の中で示してまいりたいというふうには考えております。

【委員】それと、この病院における防災訓練ですとか、または災害時における避難行動計画とかこういったものはどうなのですか。

【事務局】はい、当院の防災の関係でございますが、まず避難訓練等でございますが、こちらにつきましては年2回ですね病院のほうで実施しているところでございます。直近でいきますと11月に実施しておりまして、また来月3月の下旬でございますが、実施する予定で考えているところでございます。また、病院の中でですね当然そういった災害を想定したマニュアルのほうを策定しておりまして、それで各職員の方に周知徹底図っているところでございます。以上でございます。

【委員】その避難行動計画のマニュアル作りということですが、これは当然病院内だけではできるものではないですよ。その辺の検討というのはされているのですか、それとも、今後していくのでしょうか。その辺はどうですか。

【事務局】今現在ですね、病院で策定したものにつきましては、基本病院の中でですね策定したものがございます。当然、今後その策定したものにつきましても改定していく必要がございますので、そういった時につきましては、市の関係部署とも協議のほうをして

いくような形となると考えているところでございます。以上でございます。

【会長】他の委員さんいかがでしょうか。よろしいですか。質問が無いようですので、3「その他」事務局の方からありますでしょうか。お願い致します。

【事務局】特にございません。

【会長】委員の皆さんの方から何か発言がありますでしょうか。どうぞ。

【委員】老朽化の問題にも関わりますが、この蕨というまちを、これから日本が抱える少子化、人口減少も踏まえて高齢化による疾病構造の変化等に合致するような病院設計とか、ビジョンというか、そういうものを合わせてですね、それをマーケティングリサーチをしながら、あとは病院の規模も含めてですね考えていく必要がやっぱりあるのだろうと思っっているのですが、いつごろまでにどうするというようなビジョンか何かございますか。

【事務局】確かにですね、今色々国の医療制度改革等、またそれによって県の方でも地域医療構想が28年度に作られて討論もしております。それを踏まえまして、当院の現状を今数値的なものを基礎調査でやっておりますので、その辺に合わせたものを、どうあるべきかというところを、来年度に策定いたします将来構想で定めていきたいなというふうに考えているところでございます。

【委員】人口的にはどうなのですかね、蕨は、今後の。予想というのは難しいでしょうけれど、例えば5年先、10年先どういうふうになりそうかみたいな展望というのは。

【会長】頼高市長お願いします。

【市長】国のほうでよく地方創生といわれている中で、蕨でも蕨版の戦略プランを作ったのですけれども、その中で人口ビジョンというものも策定をしました。人口問題研究所の推計というものもあるのですけれども、あれは非常に少なくなる見通しなのですが、実際の推移は蕨で微増傾向今も続いていると。将来はその微増傾向が永遠に続くということはないのですけれども、ほぼ今の人口程度、今7万4千なのですけれども、そのぐらいは維持していけるだろうというような、政策を打つことを含めてですけれども、そんなふうな見通しを今立てていると。

【会長】ですから現状の人口は推移しながら、それに見合った病院という形でしょうかね。

【会長】他に、皆さんのご意見等ありますでしょうか。よろしいですか。それでは、発言がありませんので、本日の議題は全て終了しました。以上をもちまして、本日の市立病院運営審議会を閉会といたします。ありがとうございました。